

# 佐賀市の維持向上すべき歴史的風致

計画期間  
平成24年度(2012)～平成33年度(2021)

・佐賀市の平野部の成り立ちは有明海に大きく起因し、自然の陸化や鎌倉時代から行われてきた干拓により現在の佐賀平野が形成されてきました。江戸時代には、鍋島氏の居住である佐賀城を中心とした西国の雄藩に相応しい城下町が建設されました。そして、海外に門戸を開いていた長崎と小倉を結んだ長崎街道は、佐賀城下町を貫き、長崎にもたらされた海外の珍しい文物・文化は佐賀の地にも大きな影響を与え続けてきました。このような地形的・位置的背景のもと変遷を歩んできた佐賀市には、地域固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史的価値の高い建造物とが一体となった歴史的風致が形成され、今日まで継承されています。

## 01. 城下町の形成とその維持から見える歴史的風致

江戸期に完成した町割は、ほぼそのままの位置と形状で現代に継承されており、そこで行われる「川干し」や消防活動が地域住民によって継承されています。

「川干し」裏十間川⇒



## 02. 長崎街道と菓子文化の継承から見える歴史的風致

幕府から長崎警備を命じられた佐賀藩は、南蛮文化とともに当時貴重だった砂糖を手に入れることができました。砂糖を使った南蛮菓子文化が長崎街道沿いを中心に花開き、当市の南蛮菓子である「丸ぼうろ」は、現在も市内の多くの店で焼かれ市民の日常の中に息づいています。



丸ぼうろ

## 03. 近代化産業と伝統産業の継承から見える歴史的風致

佐賀藩が藩をあげて科学技術の習得に力を入れていた「精錬方」の事業のうち、ガラス事業については、経営体制を変えながら引き継がれており、そのガラス器製造の過程には、現在も「精錬方」由来の近代化産業の息吹が感じられます。



肥前ビードロ

## 04. 城下町の恵比須信仰から見える歴史的風致

他に例をみないと言われるほど恵比須像の数が多いため、市民にとって身近な存在であり、大事にされてきました。恵比須さんは、ふくよかな笑みを浮かべており、佐賀城下は「恵比須さんが微笑むまち」でもあります。

恵比須像⇒



## 05. 堀文化の継承から見える歴史的風致

低平地である城下町とその周辺は、水の恩恵とともに水害による危険性を持ち合わせています。現在も水の恩恵を享受するため、また大雨による堀や川の氾濫を回避するための活動や水難事故から子供たちを守る「ひゃーらんさん」まつりが継承されています。

ひゃーらんさんまつりの円座⇒

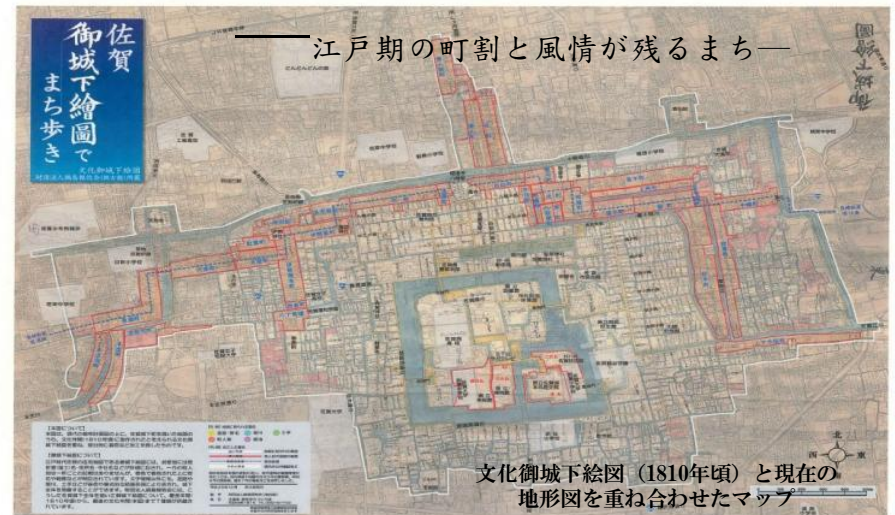


## 06. 祭事の継承から見える歴史的風致

広大な佐賀平野は米どころとして、農家の豊饒への祈りや自然への感謝の念が強く、多くの集落で行われている浮流、「白鬚神社の田楽」、「三重の獅子舞」や小正月行事の「見島のカセドリ」等の祭事がそれぞれの地域に受け継がれています。



見島のカセドリ



# 佐賀市の重点区域における施策・事業概要

重点区域の名称と面積  
佐賀城下町地区 約400ha

江戸時代からの城下町の町割りが残り、その町割りを維持する活動が行われている。また伝統文化や恵比須信仰も継承されている。その城内及び城下町の範囲を基本として重点区域を設定し、歴史的建造物の保全や道路・水路等の整備等を行い、歴史的風致の維持向上を図る。

【都市公園の整備】

## 4. 松原公園整備事業

国宝を含む佐賀藩鍋島家伝来の歴史資料を所蔵する徴古館周辺において、市民の憩いの場となるような公園整備を行う。



■松原公園(整備計画区域)

【歴史的建造物の保全】

## 5 旧久富家住宅取得保存修理事業

大正期に建てられた大型の町屋である旧久富家を取得し、保存活用のための改修を行う。



■旧久富家住宅(整備後)

【道路の保全整備】

## 15. 長崎街道再整備事業

城下町を東西に横断する長崎街道において、カラー舗装を行うことにより道筋の明確化を行う。



■長崎街道

【案内サイン等の整備】

## 20. 案内・説明看板及び誘導看板整備事業

歴史的資産が点在する長崎街道を中心に指定文化財や史跡等に関する案内・説明・誘導サインの新設・改修・修繕を行う。



■説明サイン(整備後)

【水路の保全整備】

## 22. 水路保全整備事業

江戸期の町割りを継承する水路において、今も残る赤石護岸の保全や石積護岸の整備及び整備に対する助成等を行う。



■石積護岸の整備(整備後)

【事業実施位置図】

